

下部消化管内視検査ならびに治療の説明書

<検査目的> 大腸にできる病気（炎症・潰瘍・ポリープ・がんなど）を内視鏡で直接観察し適切な治療方法を考えるために行います。ポリープを認めた場合には、必要あれば生検で診断する、あるいはポリープ切除治療を行います。

<方法> 初診時に多量の下剤を飲んでも負担がかからないかどうか、あらかじめ大腸検査のための一般検査を行います。当日は下剤による排便が落ち着いたところで、まず、点滴をします。検査が楽に受けられるように鎮静薬の注射をして少し眠くなった状態にします。

内視鏡を肛門から挿入し、大腸をまんべんなく観察します。必要ならば小さな組織を採取して、顕微鏡検査で良性か悪性かを判断します（病理組織検査）。検査終了後は、鎮静薬の効果がある程度とれるまで内視鏡サロンで休んでいただきます。特に痛みはありませんが、腸が極めて過長な方、手術の既往があり腸が癒着している方などは、検査時に若干の痛みを伴うことがありますので、強く痛くないかをお話ししながら検査をすすめます。痛みが強く偶発症の危険性が懸念される場合には、検査を中止することがあります。

<検査前日および当日の注意事項> 前日は朝食から検査食を食べていただき、それ以降は寝るまでに水分をたくさん摂取して下さい。眠前には、別紙のように下剤を飲んでいただきます。当日は食事を摂らず、血圧や不整脈などの心臓の薬、精神科の薬以外の薬は飲まないで下さい。また、初診時に忘れた方は、現在内服されている薬の一覧表か薬剤そのものをご持参下さい。

鎮静剤を使用する場合には、アレルギーや血圧低下、呼吸抑制のほか、効果は人によっても違いますが半日くらい眠気やフラフラ感が続くこともありますので、検査当日は自動車、バイク、自転車の運転をしないで下さい。ご自身で運転して来院された方には鎮静剤を使用できません。また、ご高齢の方はご家族が付き添って下さることをお願い致します。

<検査後の注意事項> 鎮静剤の効果が切れたら水分や軽食を摂ってもかまいません。ポリープ切除を受けられた方は、別紙の注意事項に留意して下さい。検査後の当日の飲酒や喫煙はご遠慮下さい。内服に関しては終了時に医師にご確認下さい。

<偶発症について> 精密な検査ほど、偶発症の頻度が増加します。挿入やポリープ切除に伴う出血や穿孔などの偶発症が報告され、全国集計では発生頻度は0.04%、死亡率は0.00081%でした。万一、偶発症が発生したときには外科処置を含めた最善の処置をいたします。

年 月 日 月見の里・消化器内視鏡クリニック 小島由光

